

創刊110周年記念

# 誇れるふるさと

## 24地区リレー

〈vol.10〉

### 〈神原② 課題とキーマン〉

地域づくりのスローガンは「人と人がふれあい支え合い安全で安心して暮らせる街」。神原地区コミュニティ推進協議会（江嶋亜雄会長）を母体とし、健康福祉、環境改善、子どもの健全育成などを担当する各種団体が年間を通じて多彩な行事を企画。一人暮らしの高齢者の増加と小家族化が進む中で住民同士の交流を促している。



## マンション住民、若年世代との交流促進

神原は立地の利便性から、マンションなどの集合住宅に転入してきた新規住民が多い。そうした人々と、長年地域で暮らす住民たちのコミュニティの課題となっており、連帯感の形成を意識した取り組みが進められている。

コミュニティでは8月の夏祭り、10月の文化祭、2月のひなまつりを地区の「三大行事」として掲げ、子どもからお年寄りまで誰もが楽しめる

## SNS活用し、デジタル化加速

プログラムづくりの力を入れる。コロナ禍でもつながりを絶やさないようにと、制限の中で規模を縮小するなどして開催してきたイベントも多い。長年続く宇部港での「3世代交流釣り大会」など、さまざまな方法で多世代間の触れ合いを図っている。

3年前から取り組んできたデジタル化事業は、今年からデジタル部会を独立させて取り組みを加速。公式ホームページやSNSでの積極的な情報

発信に加え、今年はインスタグラムを使った季節のフォトコンテストなど新たな試みにも挑戦した。近隣にある慶進高や宇部中央高の生徒たちを先生として招いて、高齢者を対象としたスマートフォン教室なども企画中。江嶋会長は「将来的には電子ベースで運営できるようにしていく。若い世代の地域活動への参加のきっかけにもなれば」と計画を進める。

市街地にありながら、高齢者の買い物難民が多いという課題も。47区自治会長の西村聡明さんは「国道190号から海側は特に高齢化率が高いが、生活用品がそろった店が無い。車を持たない高齢者には不便」と訴える。かつて多くの住民の生活を支えていた中心市街地の商店街も、今はシャッターが目立つ。空き店舗の老朽化などの問題もあるため、早急な対策を市に求めている。かつてのにぎわいとはいかずとも、明るく安全で、誰もが暮らしやすい地区を目指して、住民一人一人が地域課題に向き合っている。